



平和へのメッセージ from 知覧 第34回スピーチコンテスト

いのちの尊さ、平和の大切さのメッセージを発信

8月15日、第34回スピーチコンテストが開催され、中学校の部で優秀賞を受賞した川辺中学校2年の津平貴史さんと小学生的部の平和作文コンテストで優秀賞に選ばれた御園創獅さんの作文を原文のまま紹介します。

「特攻隊員が託した思い」

川辺中学校2年 津平 貴史



空を飛び去った特攻隊員たちはもう日本の本土を見ることはない。その時、隊員たちは何を思っていたのだろうか。今までの後悔、家族への感謝、そして死への恐怖……。複雑な気持ちが入り混じって心が押し潰されそうだっただろう。それでも笑って、南の海で散った尊い命があったことを忘れてはならない。

私は生まれてから一度も戦争に巻き込まれたことはなく「平和」な環境でしか育ったことがない。また、「私一人の人間が平和について考えても何も変わらない」と平和学習までも嫌っていた。しかしそれが、間違っているということを知ったのは、この春に知覧特攻平和会館を訪れたときだ。

今から八十二年前の昭和十六年日本軍がアメリカの真珠湾を攻撃して始まった太平洋戦争。戦争の最初は

勝利を続けていた日本だったが、昭和十七年のミッドウェー海戦の敗北を境に戦局は不利になっていった。日本の支配下にあった太平洋の島々も奪われ、次に狙われたのは沖縄だった。沖縄は日本の防衛の最前線であり絶対に守らなくてはならなかった。そこで、重さ二百五十キロの爆弾を装着した戦闘機で敵の艦船に体当たりして沈めるという必死の作戦、特攻作戦が行われたのだ。私が住んでいる川辺の隣の町の知覧。その知覧から四百三十九人も夢のある青年が特攻へ向かったと知り衝撃を受けた。知覧が特攻基地だったということを知ってはいたが、こんなに大勢の隊員が残酷な運命をたどった事にはわからなには信じがたいことだったからだ。平和会館内にはその命の尊厳を無視した作戦を勇猛果敢に実行した特攻隊員たちの最期の叫びや資料が多数集められていた。また、語り部の話も聞いた。その中でも私の心に刺さったエピソードが二つある。一つ目は少年飛行兵と呼ばれる方々の写真だ。年齢は私と四つや五つ位しか変わらず少し大人びた中学校の先輩と言われてもしっくりくる。その純粋な笑顔からは数時間後に飛び立つ人とは思えない。なぜ笑えたのか。それは「もう覚悟を決めていたのだらう」と、語り部は言った。それでも、

自分がもし特攻にいくとしたらあれだけの笑顔はできないだろう。特攻作戦がなければ、戦争がなければこの方々にも明るい未来があったと思うと、本当に心が痛んだ。もう一つは第七十七振武隊として五月四日に十八歳で特攻戦死をされた相花信夫少尉の話だ。相花少尉は四歳の時に母をなくしてしまふ。しかし六歳の時に父が再婚し新しい母を迎えることになる。だが新しい母になかなか馴染むことができなかった。そしてそのまま特攻にいくことになったそう。遺書には「俺は幸福だったついに最後迄「お母さん」と呼ばざりし俺 幾度か思い切って呼ばんとしたが何と意思薄弱な俺だったらう」「今こそ大聲で呼ばして頂きます お母さんお母さん お母さん」とある。新しい母への感謝の気持ちと共に「お母さん」と一度も呼ばなかったその無念がひしひしと伝わってきた。また、この遺書には我々現代を生きる人にも「お母さん」や「家族」と平和にいれるのは本当に有り難いことだ、と訴えかけているのではないだろうか。そういった特攻隊員が私たちに託していた思いを心に刻み、生き方を変えること。それが平和学習、いや平和自体の大切さにつながっているのではないだろうか。

薩摩半島南端に美しくそびえたつ開聞岳。その秀麗な山容を見て特攻へと向かった若き隊員たちは「俺らの分まで家族と平和に生きろよ」と思い飛び去ったのかもしれない。

薩摩半島南端に美しくそびえたつ開聞岳。
私は小学生の頃そこに登った事がある。頂上からは、南薩の田畑や海、山などを見わたすことができる。その景色を見ると、ずっと心が軽くなり癒される。しかし戦争中、その上



「大人と戦争」

知覧小学校5年 みその 御園 そうし 創獅



「今、あなたは幸せですか。」
この問いかけに、あなたなら何と答えますか。

世の中には、学校に行けない人、病気になる人も病院も薬も無く、食べるものさえ無い。そういう人がたくさんいます。

ぼくは、学校に行っています。病院も薬もある、食べ物もたくさんある中で生活をしています。ぼくは、そんな生活を特別なことだと思わず、どこか当たり前のようについていて、学校に行くことを面倒に思ったり、好き嫌いをしたりして食べ物を残してしまふこともあります。

そんな中、語り部の方の話を聞く機会がありました。以前から「はだ

しのゲン」を読んでいたけれど、経験者の話す内容は想像以上で、今の当たり前は、当たり前ではないことをしりました。戦争を知らないぼくにとつて、とてもしうげき的で貴重な体験でした。

ぼくたちは、学校でいろいろなことを勉強しています。人には優しく、思いやりを大切に、人を傷つけてはいけません。たくさんの方を教わっています。もちろん、戦争もどんな理由があっても絶対いけないことだと学びました。それなのにどうして、戦争が起きている国があるのだらう。大人は知っているはずなのに、どうして大人は戦争をするのだらう。

戦争は、今の生活を一瞬にしてうばいます。人から幸せを、人の命をうばってしまします。日本では、人の命をうばうと警察に捕まります。きつと、他の国でも同じだと思えます。どうして戦争で人の命をうばっても、警察に捕まらないのかわかりません。

戦争は、世界中を巻き込んで、みんなを不幸にします。すぐそばで起きていないだけで、今もどこかで苦しんでいる人たちがたくさんいます。戦争は昔のことじゃない。今、起きているのです。

ぼくたちがケンカをするとしかられます。話を聞かない、意地悪をするとしかられます。大人が子どもを見ているように、ぼくたち子どもも大人を見えています。ケンカをする大人、意地悪をする大人。そして、戦争をする大人。

ぼくたちは、大人を見本にして大きくなります。それでもぼくは、大人になっても戦争は絶対にしたくないし、未来が幸せであふれている世界になってほしいです。大切な人を不幸にしたり、命をうばったりする戦争は絶対にしません。ぼくは、明日も明後日も、何十年後も、その先もずっと幸せだと言いつづけていきたいです。

そしてこれから、人に対して優しく、思いやりを忘れずに接すること、人の話もしっかり聞こうと思います。この世界を変えるためには、偉い人になるしかない。だから、今できる勉強をしつかりがんばります。いつか大人になって僕がお父さんになったら、今のぼくが幸せに感じているように、新しい家族も幸せにしたいと思えます。

想像してみてください。

戦争をすると、今の生活を失うかもしれないこと。大切な家族を失うかもしれないこと。自分が戦争で、人の命をうばう側になってしまふかもしれないこと。

ぼくの住むこの街は、特攻隊が最後に生きていた場所です。彼らは、十七才から三十二才の人たちでした。当時の憲法では、二十才未満は子ど

もです。そんな子どもたちの命さえも、大人は道具にしました。誰かにとつて大切な人達の命を、道具として使ったのです。

教えてください。

どうすれば戦争を起こす大人を止めることができますか。世界中で戦争がなくなることを願っています。

そして、ぼくは今、幸せです。この幸せが、ずっと続きますように。

審査結果

中学生の部

最優秀賞 泰田 花愛 さん

鹿児島大学教育学部附属中学校 1年 (鹿児島市)

優秀賞 津平 貴史 さん

川辺中学校 2年 (南九州市)

特選 黒川 海空 さん

山里中学校 3年 (長崎市)

特選 鮫島 杏佳 さん

枕崎中学校 3年 (枕崎市)

高校生の部

最優秀賞 本田 聖奈 さん

成蹊高等学校 2年 (東京都)

優秀賞 左座 青空 さん

第二高等学校 3年 (熊本県)

特選 寺村 星南 さん

鶴丸高等学校 1年 (鹿児島県)

特選 千葉 心和 さん

脇町高等学校 2年 (徳島県)

一般の部

特選 肝付 友美 さん

(鹿児島県)



初の快挙

全国茶品評会産地賞日本一4連覇！

国内の茶産地が名誉と威信をかけた第77回全国茶品評会の審査会が福岡県八女市JA全農ふくれん茶取引センターで行われ、品質が最も優れている産地に贈られる産地賞優勝を四年連続で受賞しました。個人の部においても株式会社枥川製茶が農林水産省農産局長賞に輝いた他、2～5位まで本市の出品者が上位を独占し、出品された殆どが上位に入賞されました。

授賞式は10月28日に福岡県八女市で開催される全国お茶まつり式典で執り行われます。入賞者は左記のとおりです。

全国茶品評会での四連覇は初の快挙で、質・量ともに兼ね備えた日本一の産地をPRできました。

【全国茶品評会 普通煎茶10kg】

1等 農林水産省農産局長賞 (株) 枥川製茶

日本茶業中央会長賞 (有) 宮原光製茶 宮原健

全国茶生産団体連合会長賞 (農) 大隣岳茶生産組合

全国茶商工業連理事長賞 (農) 菊永茶生産組合

2等 (有) 前原製茶 前原翔太

(有) 下窪勲製茶 下窪健一郎

(有) 下窪製茶 下窪和幸

西垂水茶業(有)

3等 (農) 松山茶生産組合 (有) マルマサ製茶

後岳茶業(有) 宮原俊朗

【全国茶品評会 普通煎茶4kg】

2等 (株) 枥川製茶

3等 (有) 前原製茶

南九州を、
一滴にこめて



～南九州市総合防災訓練～

4年ぶり、本番さながらに訓練



9月3日、川辺町の清水小学校一帯で「南九州市総合防災訓練」が4年ぶりに行われました。

地元の清水自主防災組織をはじめ約320人が参加し住民の避難誘導、水防、救出、救護、消火、炊き出しなどの訓練を実施し、住民や行政、関係機関との連携を確認しました。

訓練に参加された皆さんは、本番さながらの真剣さで取り組んでいました。

この総合防災訓練は「防災の日（9月1日）」に合わせて実施されたものです。

～南九州市立3中学校交流会～

学校代表の生徒会役員が交流！



8月4日、頤娃中学校、知覧中学校、川辺中学校の生徒会役員が頤娃中学校で交流会を行いました。

前半は南薩少年自然の家の職員を講師に招き、レクリエーションの講習を受けました。3中学校の生徒が混ざり合い、楽しみながら学んでいました。後半は、お互いの役員や生徒会活動について紹介をした後、専門部ごとに分かれて活発な意見交換を行い、交流を深めました。今回の交流会をとおして、それぞれの中学校のよさを知ることができ、自校の活動を更に充実させるよい機会となりました。

～ふうりんマルシェ＆知覧deランチ～

キッチンカーグルメや風鈴の色付け体験



8月20日、知覧武家屋敷庭園群の藤棚公園周辺で、一般社団法人南九州市観光協会主催の「ふうりんマルシェ＆知覧deランチ」が開催され、訪れた人が風鈴の音色やキッチンカーグルメを楽しみました。

また、風鈴の「色付け体験」では、多くの子どもたちが色とりどりの色付けにチャレンジしました。

鹿児島市から訪れた参加者は「久々に絵を描きました。完成した風鈴を家に飾るのが楽しみです」と話していました。

～R-ONE事業 サイエンス教室～

音と光であそんだよ！



8月11日、頤娃文化会館で鹿児島大学理学部の秦浩紀准教授を講師に招き、サイエンス教室が開かれました。市内の小中学生とその保護者43人が参加し、「はたと閃く！どうして〇〇！」のテーマのもと、光や音を中心に楽しみながら、多くの実験をしました。蛇腹のホースを回して音を出したり、赤・青・緑の光を重ねると白くなったりと不思議な現象を体験した後、講師からどうしてそうなるのかの説明を聞きました。参加した児童たちは「いろいろな実験を教えてもらって楽しかった。おうちでもやってみたい」と科学に興味を持った様子でした。



まちの話題

みな、みりよく!
南九州市

～かごしま国体・かごしま大会開催記念～

オリジナルフレーム切手贈呈式



今年10月に開催される、燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会を記念し、日本郵便株式会社九州支社から『薩摩地域版 燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会』開催記念フレーム切手が限定発売されることになり、8月30日、市役所で贈呈式が行われました。記念切手は、南薩地域のそれぞれの特色を活かした景勝地やイベントなどがデザインされており、本市の知覧武家屋敷や特攻勇士像が描かれたオリジナル切手となっています。9月1日より市内などの郵便局で500シート限定で販売されています。

～浮辺小学校閉校記念花火大会～

学校を懐かしむ人で賑わう



8月12日、浮辺小学校閉校記念花火大会が開催され約1千発の花火が夜空を彩りました。

この花火大会に向けて、PTA経験者らで実行委員会が結成され、3月から寄付を呼びかけ実現したものです。

校庭にはキッチンカーも並び、地区民をはじめ、学校を懐かしむたくさんの人で賑わいました。

実行委員長の山口浩一さんは「花火の景色といっしょに浮辺小の思い出を心に刻んでもらえたと思う」と話しました。

～畜産体験学習会～

卵のパック詰めや牛とのふれあい



8月20日、市畜産振興会とかわなべ牛銘柄確立協議会が共催で畜産体験学習会を開催し、市内の小学生26人が参加しました。

最初にサンエッグの鶏卵パッケージ工場を見学、その後、五反田照美さんの牛舎で牛とのふれあい体験、最後に畜産物を使った昼食をいただきました。

参加した子どもたちは「卵がどう入れられているか、牛をどう育てているのかも分かって楽しかった」と話し、畜産への理解が深まった様子でした。

～第42回高校生ふるさと大会～

自主的にボランティア活動



8月5日、知覧平和公園内で高校生ふるさと大会が行われました。この大会は、高校生の自主的な発案で地域との連帯感を深め、進んでふるさとづくりに参加しようとするものです。

今年は灯籠清掃や90歳以上の独居高齢者へのハガキ書き、あしなが学生募金のボランティア活動を行いました。

会長の折田真唯さんは「高校生として今できる活動が、地域の方々に少しでも貢献できたらうれしいです」と話しました。



～南九州市ツーリズム協議会主催の出前授業～ パッククッキング体験とピザ作り体験



8月1日、高田地区公民館で、高田小学校の児童19人がパッククッキングとピザ作りに挑戦しました。

ツーリズム協議会員が「パッククッキングは災害時にも役立ちます」と説明すると、保護者も興味津々で見学していました。

生地に知覧茶を混ぜ込んだピザ作りでは、子どもたちはいつもと違う生地の色に驚きながらも、出来上がったピザを美味しく食べていました。参加した児童は「ピザがとても美味しかった。教わったことを活かして家でもやってみたいです」と楽しんだ様子でした。

～茶レンジ隊・こども学芸員コラボ体験活動～ 知覧武家屋敷で糸つむぎ体験



8月26日、知覧武家屋敷で糸つむぎ体験を実施しました。これは地域体験と文化財を活用した活動を行う初めてのものです。児童と保護者合わせて10人が参加し、武家屋敷庭園や敷地内の畑で育てている綿花の見学を行い、綿からの糸つむぎ、その糸を使用してのミサンガ作りを体験しました。

参加者は「難しい」「糸が切れた」など苦戦しつつ、夢中になっていました。また、綿から種をとりだす道具を使ってみたりと、身近な素材である糸が、たくさんの工程を経てできていることを学ぶことができました。

～鹿児島県選挙管理委員会連合会表彰～ 石本健一さん・大迫茂子さん



9月1日、市役所において鹿児島県選挙管理委員会連合会表彰の伝達式が行われ、市長から石本健一委員および大迫茂子委員へそれぞれ表彰状が伝達されました。

この表彰は、15年以上の長年にわたり、市選挙管理委員会委員の職を務め、選挙の管理執行などの功績が顕著であったことが認められたものです。

～南九州市朝ヨガ教室～ 早朝にヨガでリフレッシュ！



8月5日から19日にかけて、市内3カ所（岩屋公園、知覧平和公園、大野岳公園）で南九州市朝ヨガ教室が開催されました。3カ所で延べ100人、幅広い年代から参加がありました。

朝のさわやかな空気と自然の音、そして風を感じの中でヨガを行い、心身共にリフレッシュし、清々しい一日を迎えることができました。

参加者は「もっといろんな場所で朝ヨガをしてみたい」と話していました。